

学番	4 1	県立見附高等学校
----	-----	----------

令和 7 年度 学校自己評価表（報告）

学 校 運 営 計 画					
学 校 運 営 方 針		1 基本的な生活習慣を確立するとともに、自ら学び行動し、粘り強く挑戦して未来を切り開く生徒を育成する。 2 謙虚な気持ちと感謝と思いやりの心のある生徒を育成する。 3 教職員全員で、いじめを許さない、見逃さない学校体制で取り組み、安心・安全で信頼される学校づくりを行う。 4 地域社会から必要とされる学校として、地域と連携した教育を推進する。 5 教員が生徒への教育に集中でき、めりはりのある働き方改革を推進する。			
昨年度の成果と課題		今年度の重点目標	具体的目標		
ICT機器を活用した分かる学習指導を推進した。また観点別評価、特に主体的に学習に取り組む態度の見取りについて、校内研修を企画し、職員間の議論を深めてきた。 いずれも、生徒の学習活動の質の向上につながっている。 今後は、月々岡特別支援学校見附分校や、地域社会との更なる連携を図り、それを外部に発信することで、開かれた学校づくりを進めることが課題である。		（１）基礎学力の養成と学習習慣の確立	① 分かりやすい授業と基礎基本の定着 ② 学習習慣の確立 ③ ICT機器の利活用、生徒の個性に合わせた学習の支援 ④ 生徒一人ひとりの進路希望実現 ⑤ 主体的・対話的で深い学びの観点		
		（２）豊かな人間性の育成と多様な人々の共生	① 心身を鍛え、感性を磨き、挑戦する気持ちと創造力の育成 ② 礼儀と秩序を重んじ、社会性の育成 ③ 体験的な学習と「かかわる同和教育」の推進		
		（３）時間外の勤務時間の削減	① 業務の見直し、削減・簡素化・効率化 ② 部活動指導の適正化 ③ 在校時間の短縮		
重点目標	具体的目標	具体的方策			評価
基礎学力の養成と学習習慣の確立	分かりやすい授業と基礎基本の定着	單元ごとの観点別評価を充実させる。 生徒による授業評価を活用し、授業改善に生かす。（教務）			B
		発達段階に応じた題材設定や ICT の活用により、生徒の興味関心を引き出しわかりやすい授業と基礎基本の定着を図る。（各教科）			A
	学習習慣の確立	「総合的な探究の時間」を中心に、進路実現に向けた目標を持てるように支援する。（全学年）			A
		学習の進度と習熟に合わせながら、宿題、課題等をとおして、学習習慣を身につけさせる。（各教科）			B
	③ICT 機器の利活用と生徒の個性に合わせた学習の支援	ICT を活用した授業づくりを推進する。（教務）（各教科）			A
		ホームページを定期的に更新し、生徒の学びを発信する。（教務）			B
		ICT を活用し、生徒の個性に対応した授業を推進する。（教務）			B

	④生徒一人ひとりの進路希望実現	学期ごとに面談を行い、自己理解と進路啓発を進める。（全学年）	A			
		進路希望調査や面談等から生徒の進路希望状況を把握する。 進路ガイダンス、上級学校見学やインターンシップを実施して、生徒の進路実現に向けて指導を行う。（進路指導）	A	A		
	⑤主体的・対話的で深い学びの観点	生徒一人ひとりが他の生徒の視点を取り入れた協働的な学びの授業づくりを行う。（全教科）	B	B		
豊かな人間性の育成と多様な人々との共生	①心身を鍛え、感性を磨き、挑戦する気持ちと創造力を育成	学校行事や特別活動等をとおして、積極的に取り組む姿勢や挑戦する力、創造力を育成する。（全学年）（教科：保体・芸術・家庭）	A		A	
		講演会や学習会をとおして、相手を尊重し、差別を許さない感性を磨く。（同和教育）	A			
		生徒会を中心に主体的に活動できるよう支援する。（生徒指導）	A			
	②礼儀と秩序を重んじ、社会性を育成	清掃や保健指導をとおして、規律ある学校生活が過ごせるよう支援する。（保健）	A		A	A
		公共交通機関の利用マナーの指導、自転車運転ルールへの遵守指導を行い、規範意識を高める。 携帯電話等の電子機器の使用ルールを徹底する。（生徒指導）	A			
	③多様な人々を理解し、「かかわる同和教育」を推進	同和教育を中核として、種々の人権課題について授業に取り組む。 職員研修をとおして、全教職員の人権意識を高める。（同和教育）	B		A	
		いじめ防止プログラムを充実させ、いじめは人権侵害であることを理解させる。定期的なアンケートを実施し、いじめの予防・早期発見に努める。（いじめ）	A			
時間外の勤務時間の削減	①業務の見直し削減・簡素化・効率化	校務運営委員会で業務の削減・簡素化・効率化を検討する。	B	B		
	②部活動指導の適正化	部活動は計画的に行い、学校閉庁日は、部活動をしない。 週休日、祝日の登庁簿にて事前に申請する。（全職員）	A	A	B	
	③在校時間の短縮	職員会議の時間短縮を実行する。 定時退庁日の時刻を守りワークライフ・バランスを保つ。（全職員）	B	B		
成果	・授業に ICT を活用する教員が増え、生徒の学習効果が向上するとともに、教員の教材研究が活発化し、授業準備の効率化が進んだ。 ・全職員での服装・頭髪やスマホに関するルールを確認し、継続した指導を行うことにより、生徒の礼儀と秩序が維持した。 ・会議資料のペーパーレス化を行ったことで、運営の効率化を進めることができた。		総合評価			
			B			